

平成二十八年年度

金子兜太のふるさと投句 第二回特選・入選作品

選者 中村琴江

特選

石榴笑む兜太の秩父音頭かな

東京都

荒木 正邦

講評

昨年九月金子兜太先生の九十七歳を祝う会が皆野町文化会館に於て開催されました。俳句対談後、兜太先生の秩父音頭のご披露がありました。味のあるお声と節まわしに会場は歓声と鳴り止まぬ拍手の渦でした。「石榴笑む」は堅くて厚い皮が熟すと裂けて中に一杯赤い種が詰まっている姿です。一句から醸し出されていくぬくもりが心にしみる作品です。

若き僧我が子摘みしと花御堂

群馬県

佐藤 安代

講評

秩父塚越地区に子供達だけで行う「花まつり」が伝承されています。花御堂の屋根は野山で摘み集められた色とりどりの花で子供達が美しく葺きます。作者は花まつりをお参りされたのでしよう。花いっぱい飾られた花御堂。御僧のお話しに感動なされたのです。山里の春の明るさの伝わってくる楽しい一句です。

桑括る鈴透き通り札所道

さいたま市

増田 玲子

講評

晩秋蚕が終り桑の葉が落ち尽くす頃、藁か細縄で枝ばかりとなった桑を一株毎に風雪害から守るために括ります。括られて整然と並ぶ畑の桑は勇姿を現し見事です。「鈴透き通り」に素朴な風景が表現されております。作者の柔軟な感性から生まれた一句です。

入選

大人の部

お遍路を泊めるしころの中二階
お返しに友より届くどちの餅
切符切る音爽やかに秩父線
地芝居果て甘えに返る名子役
句碑の子ら遊ぶ聲張る花野かな
蔵元のみそ屋ののれん初もみち
他所人にも声かく里や秋深む
武甲山七難隠す雪化粧
太きもの生まるる秋の皆野かな
兜太文字をどる社の秋闌くる
慈しむ腹出す句碑に苔の花
長静の瀬音に舞いし秋あかね

さいたま市 増田 信雄
小鹿野町 原島 勝子
神奈川県 溝田 俊雄
長静町 市川 健一
皆野町 新井 民子
秩父市 前原元一郎
さいたま市 関根 要造
群馬県 川端 一美
皆野町 金子 和美
熊谷市 鈴木 信行
秩父市 町田 ヨウ子
東京都 柴田 弘道

小人の部

皆野町わらいあふれる桃源郷
みなのはねちちいおんどのほっしょうち
みなのまちおそばをたべてあそんだよ
ちちぶのゆなかなかおんどがちょうどいい
きれいだなやっぱりちちぶたのしいな

本庄市 竹野 彩美(十四歳)
群馬県 小池 日和(十歳)
東松山市 木村 ルナ(九歳)
東京都 稲垣 亜優(八歳)
さいたま市 いけ上ひな(七歳)

投句方法

役場・皆野駅など町内11か所に設置されている投句箱に、専用の投句用紙が用意してありますので必要事項をご記入ください。

次回選句会 問合せ

平成29年第一回9月(5月)8月投句分 当季雑誌
皆野町商工会 ☎62・1311